

あいさつ

福島県中学校教育研究会
保健体育専門部長 佐藤 晃

はじめに今年度の研究推進にあたりましては、大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

振り返りますと、4月、各支部総会及び専門部会により新体制での研究推進がスタートしました。

また、5月6日には、各支部専門部長の先生方にご出席いただき、県総会及び専門部会を開催し、研究推進についての共通理解を図りました。

しかしながら、5月19日予定の主題研修会は、新型コロナウイルスの影響により中止となったため、各支部の研究推進計画を冊子にまとめ、情報提供しました。

さらに、7月には、各支部において研究協議会が開催され、各学校の授業実践に基づいて、研究主題及び副主題にせまる協議を深めました。

県の研究協議会開催地の福島地区においては、福島市立北信中学校の立谷栄子先生と橘由香里先生を中心に、指導案の作成など提案授業の準備を進めていましたが、またしても新型コロナの感染拡大により、県研究協議会が中止となりました。各支部の先生方に提案授業を参観いただくとともに、研究成果を発表し、分かち合うことができずにとっても残念に思いました。つきましては、提案授業の指導案及び検証授業後の自評を研究集録に掲載し、各支部研究協議会資料を冊子にまとめましたので、是非参考にしてください。

次に、福島県版保健体育ノートの編集につきましては、7月8日に第1回編集会議を開催しました。専門部副部長兼研究推進委員長の郡山市立湖南小中学校長 小林 雅 先生はじめ、6支部の編集委員の先生方にご出席いただき、基本方針に基づいて編集内容及び方法を検討し、編集を進め、次年度の改訂版が完成しました。各支部・学校におかれましては、福島県版保健体育ノートを採用され、授業の充実にご活用いただきますよう、よろしく願いいたします。

次に、令和4年度からの研究の進め方についてです。

研究主題及び副主題の設定にあたりましては、各支部専門部長の先生方にご意見及びご検討をいただき、以下のように決定しました。

【研究主題及び副主題（令和4年度）】

「体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうあればよいか」

～ 運動に主体的に取り組む態度や意欲を高める指導計画及び学習過程の工夫（体育分野） ～

また、研究内容及び研究方法に関しましては、次のとおりです。

《研究内容》

ア 体育の見方・考え方を明確にするとともに、運動の価値や特性の理解を深めるための指導方法の工夫について

イ 運動の楽しさや喜びを実感し、「見る・する・支える」など多様な関わりを感得できる単元計画や学習過程の工夫について

ウ 主体的な態度や意欲を高める指導と評価の一体化を図る指導方法の工夫について

《研究方法》

ア 主題研修（5/19）及び各支部開催の主題研修報告会を通して、副主題及び研究内容について共通理解を図り、各支部の実態に応じた研究を推進する。

イ 支部ごとに研究内容の焦点化を図り、実態把握－仮説検証－考察の過程を踏まえた具体的な一貫性のある研究を推進する。

ウ 県研究協議会（10/6）への提出資料については、副主題にせまるめにとどのように授業の工夫改善を図ったのか、指導の意図や生徒の活動・変容がわかるようにまとめる。

終わりに、令和4年度県研究協議会は、喜多方市立第二中学校において開催されます。会津・南会津地区の先生方には、大変お世話になります。

また、本部報の作成にあたりましては、県大会中止に伴って内容を変更し、先進的な「がん教育」の研究実践を会津若松市立第一中学校のご協力により掲載させていただきました。大変貴重な資料をご提供いただき、ありがとうございました。

【資料：出典一覧】

- （細胞の数）：Annals of Human Biology Volume 40, 2013 - Issue 6 ‘An estimation of the number of cells in the human body’
- 国立がん研究センターがん情報サービス「知っておきたいがんの基礎知識」（一部改変）
- 「科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究（Inoue, M. et al.: Ann Oncol, 2012; 23(5): 1362-9）」を基に国立がん研究センターがん情報サービスが作成
- 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」最新がん統計
- （厚生労働省「人口動態統計」を基に公益財団法人がん研究振興財団が作成（「がん統計‘19」））
- （細胞の数）
Annals of Human Biology : https://www.researchgate.net/publication/248399628_An_estimation_of_the_number_of_cells_in_the_human_body
- 厚生労働省 令和元年簡易生命表
- （厚生労働省「人口動態統計」より国立がん研究センターがん情報サービスが作成（「がん登録・統計」））
- （厚生労働省「人口動態統計」・全国がん登録集計を基に国立がん研究センターがん情報サービスが作成（「がん登録・統計」））
- （「科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究（Inoue, M. et al.: Ann Oncol, 2012; 23(5): 1362-9）」を基に国立がん研究センターがん情報サービスが作成）
- 国立がん研究センター社会と健康研究センター予防研究グループ 科学的根拠に基づく発がん性・がん予防効果の評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究を基に国立がん研究センターがん情報サービスが作成

【指導助言】（聖心女子大学 教授 植田誠治）

- 保健体育科におけるモデル授業となる素晴らしい授業であった。特に、次のような点が評価できる。
 - ・ 授業の組み立てや進め方にストーリー性があり、すべての生徒が納得しながら授業を受けていた。
 - ・ 様々な情報を集め、必要なものを絞り込んで 50 分間の授業に落とし込んでいる。
 - ・ グラフの分析については、生徒に考えさせる場面をしっかりと設定している。そして、教師の意図の通りにじっくり考えて自分の考えを持って意見する姿が見られた。
 - ・ 文科省では、がんの要因として3つの視点（細菌、ウイルス、生活習慣）を示しているが確実に押さえていた。（マスク着用、手洗いでは防げない）
 - ・ 授業の最後には、がん患者との交流の必要性を訴える生徒もおり、授業の目的が十分に達成できている。

【授業者自評】（教諭 渡部裕也）

- 生徒にアンケートを行って実態を把握した上で導入に取り入れた。また、ICT を有効活用しようとの考えもあり、広く資料を集めて活用できるものを選択した。
- 新1年生の教科書にはがん教育に関する内容がしっかり載っているが、現在の2・3年生の教科書にはごくわずかの内容しか載っておらず、インターネットの資料から学習を進めることとした。
- 教えたい情報がたくさんあるため、1時間の内容でどこまでを教えるべきかが非常に迷った。内容が盛りだくさんになってしまい確かな知識の定着につながったかという疑問が残る授業だった。

【授業後の生徒の感想】

- ・ 全員が「しっかり考えることができた」との感想であった。
- ・ 自分ががんを患わないようにするにはどうしたらよいのか？家族ががんになったらどうするのか？などの危機感や不安を抱く生徒も複数見られた。
- ・ 「がんについてしっかり学んでいかななくてはならない」との考えをもった生徒がほとんどであった。

★彡 編集後記 ☆彡

今回は、県のモデル校として「がん教育」の先進的な研究実践にお取り組みの会津若松市立第一中学校より貴重な資料を提供いただき心より感謝いたします。研究授業で提示されたパワーポイント資料は、県中教研ホームページに掲載してありますのでご覧ください。なお、授業で使用する場合は、事前に会津若松市立第一中学校 渡部 裕也（わたなべ ゆうや）先生までご一報ください。